



フクシマのこどもサマーキャンプin小諸

♡ お手伝い体験報告♡

少しでも関わりたい...

福島原発の事故当時、私の息子は4ヶ月、250km離れたこの場所でも不安な毎日でした。ただ、食物など不安になればなるほど、「福島にいる子どもたちは!? どういう...」と、家に閉じこもりながらも、遠くへ逃げてもらいたくて、政府に母子や妊婦の遠方避難措置を要請するネット署名をすることしかできず、あれから3年以上も経ち、結局何もできていない自分がいました。

何をしていい。何の罪もない赤ちゃん、子どもたちが一番被害を受けることに対して黙ってられない。私にも大人として責任がある。いやいやの余裕がもてた今、そんな思いが強く湧いてきました。

福島の子どもたちを毎年受け入れる活動

フクシマのこどもサマーキャンプin小諸

原発事故のあった年、私が自分のことだけで精一杯の中、福島の子どもたちを保護のために受け入れる活動が小諸で立ち上げられました。女性たちが最初各自集まって話し合いを重ねて、お金を集めてまわり、1人1人の輪をまわがらされて実現されたのです。募集はインターネットで発信され今年の受け入れは4回目、大人1名子ども19名が参加されました。8月1日～7日の1週間...スケジュールはとて盛り沢山!でした。初日のウェルカムパーティーは、地元食材の年料理にバベキュー、ハローアニマル、フットサル、プール、ブルバット祭り、農業体験、編み物ミュージアムで玉子づくり、カレーづくり、地元中学生との交流など。今年は130人もの個人ボランティアや活動団体のサポートで運営されました。

元気いっぱいの子どもたち!!

私は、子どもでも迷惑にならないお手伝いや関わりも...と考え、みんなのお布団の準備と宿題タイム、農業体験、カレーづくりの見守り...ただ一糸着にいて一糸着に楽しんで関わる事ができました。子どもたちは小中学生の子たちで、とても元気! 農業体験のジャガイモ掘りでは英天下の中、ひたすら掘り続け、いくら止めば夢中な女の子がいたり、その後玉子づくりをして疲れただろうなと思いきや、外で火起こし体験や火に夢中で、「連れて帰らない限り止めないね...」と大人たち。カレーづくりも、熱中して、作るのも食べるのも片づけるのもあつという間でした。リヒョウのハクかな、元気なという子もいましたが、大半は元気いっぱい、一糸着にいてただ楽しんで、私の息子もとても可愛がってくれて、サボトどころが逆に元気をもらう...そんな時間となりました。ただ、私は寝起きを共にせず本気で短い時間の関わりだったので、福島でどのように過ごしているのか、どの程度の汚染地域なのか全く知らず、全く聞けず、場所によっては外遊び、プール、農作業...土に触れることなどできないと聞くと、あれだけの熱中ぶり、真剣さは、...と考えると、せつなくて悔しくて。だからこそ、この活動の意味深さに改めて気づかされました。このキャンプにはリヒョウの子どもたちも多く、最後に「来年も参加したいです。」と言う子が多数いました。そして運営している方々も「また来ね、待つるよ!」と。私も、みんなにまた会いたい、お思いきり外遊んでほしい、沢山美味しいものを食べさせたい。頭ではなく、心で深く感じられた貴重な体験となりました。また来年も関わりたいと思います。(あ)